

再処理工場の 高レベル放射性廃液 はもの凄く危険

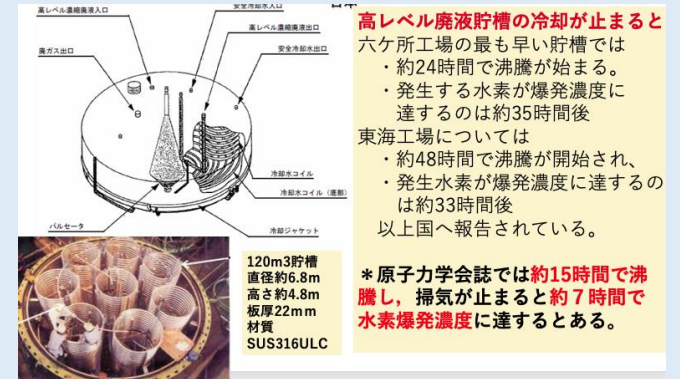
再処理工場は、使用済み核燃料から、ものすごい量の放射能を垂れ流しながら、ウランとプルトニウムを取り出す核化学工場です。その後に残るのが“高レベル放射性廃液”です。右図のような複雑な化学処理を行う危険な大工場です。

六ヶ所と東海の再処理工場には 220 m³と 340m³もの高レベル放射性廃液がたまっています。

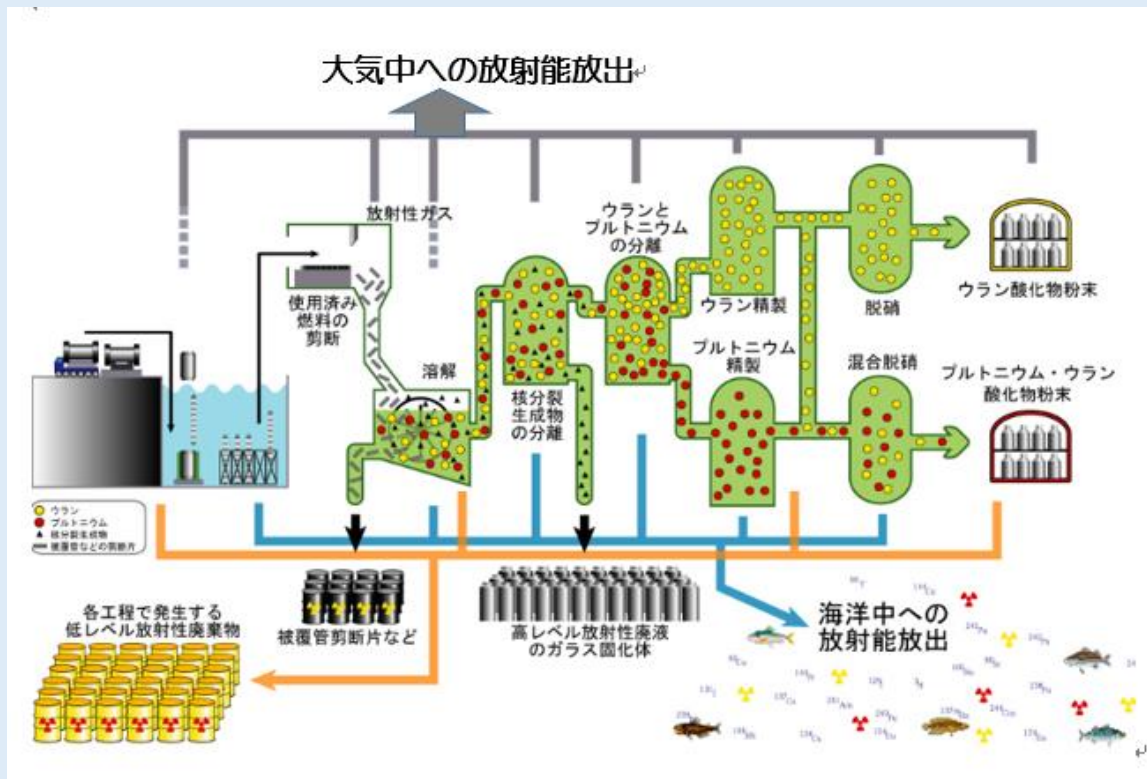


その廃液は

- (1) もの凄い放射能で、水が分解、常にぶくぶくと水素が発生。もし、水素の掃気(排気)が止まると(右図)、福島のように **水素爆発**
- (2) ものすごい放射エネルギーで、発熱。もし、冷却が止まれば、廃液は 沸騰→蒸発乾固→溶融→揮発 (**硝酸塩爆発**)
- (3) 廃液中には、フル運転時、臨界量を超



えるプルトニウムが残ることが、最近、判明しました。**臨界**や**核爆発**の可能性がります。



これらの大事故で放出される放射能で日本中が猛烈に汚染され、人が住めなくなると考えられます。(裏面へ)

下図は、六ヶ所再処理工場での事故のシミュレーションです。半数死亡・全員避難・乳幼児/妊婦退避の範囲の広さにご



注目ください。以上のことから

私たちは何よりも再処理の中止と液体状では不安定で差し迫った危険性をもつ廃液の早急な安定化を求めています。

しかし

- (1)日本のガラス固化は、失敗続き
- (2)原燃の技術者は次々に退職
- (3)ガラス固化体の処分場も未定

現実は、八方ふさがりでは？ 原燃・国は、どうするつもりなのでしょう？

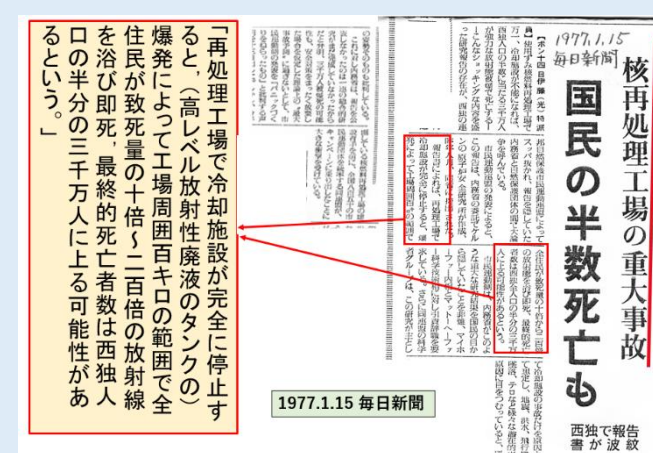
更に、六ヶ所に関しては

- (1)三沢基地の戦闘機の墜落、模擬爆弾の誤投下(2019/11/6 六ヶ所村！)、もし、再処理工場に落ちたら！
- (2)再処理工場の敷地内に活断層、もし、直下型の地震が起きたら！
- (3)十和田・八甲田の大規模噴火、もし、大量の火山灰が降り積もったら！
- (4)落雷で停電、計測器制御系の故障、もし、工場プラントの制御が不能になったら！

私たちは、この様な“もし”が現実になることを危惧しています。

もし が現実になるのではと、西ドイツ政府は、シミュレーションを行っていま

す。下図は、その結果を伝える毎日新聞の記事です。最悪の場合、国民の半数が死亡する可能性を伝えています。



日本政府も、この様なシミュレーションを行って、公表すべきでしょう。

私たちは、国にシミュレーションの実施を要求しています。